

地図に複数の図形を表示する

2-1 では 1 か所に円を描いたが、今度は複数個所に円を描いていく。フォルダ「2-2」直下の「main.js」について、以下の緑字の部分は 2-1 同様書き加え、赤字の部分は削除し(今後も同様、当然行頭の「-」は記述しない)、JavaScript を完成させる。

main.js

```
'strict'  
  
var map = null;  
  
function initMap() {  
  map = new google.maps.Map($('#map').get(0), {  
    center: {lat: 43.068543, lng: 141.351128},  
    zoom: 15  
  });  
  
  // circle  
- var circle_coordinate = {lat: 43.076490, lng: 141.333961};  
- var circle = new google.maps.Circle({  
-   map: map,  
-   center: circle_coordinate,  
-   radius: 100  
+ var circle_coordinates = [  
+   {lat: 43.076490, lng: 141.333961},  
+   {lat: 43.072195, lng: 141.368723},  
+   {lat: 43.058400, lng: 141.337008},  
+ ];  
+  
+ circle_coordinates.forEach(function(coordinate){  
+   var circle = new google.maps.Circle({  
+     map: map,  
+     center: coordinate,  
+     radius: 100  
+   });  
  });  
}
```

成功すると、3 か所に円が描かれた Google マップが表示されるはずである(次ページ図)。今回は指定する円の中心を 3 か所に増やし、それらの緯度経度を「circle coordinates」という配列に格納している(プログラム 12~16 行目)。

18 行目では、Google マップ上に円を描く動作を、配列「circle coordinates」の各緯度経度に対して行うように指示している。円を描く動作そのものは、2-1 と同様である。余裕があれば、円を描く緯度経度を変えたり円を増やしたりしてみてもよいだろう。

